

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業  
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)  
成果報告書

実施機関名 (山口県教育委員会)

## 1. テーマ

○発達障害あるいはその傾向や可能性のある生徒の進路実現や卒業後の円滑な社会生活への移行を支援するため、以下の2点について研究を行う。

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」など円滑な社会生活を営む上で必要となる力等を学ぶ「国語」や「外国語(英語)」における、適切で効果的な指導方法について研究する。
- ・社会生活の充実・向上に直接結びつく教科である「家庭」における、適切で効果的な指導・支援について研究する。

## 2. 問題意識・提案背景

○発達障害のある生徒の中で、例えば、学習障害のある生徒は「読む・書く・話す」の特定の領域に困難を示すことがある。また、高機能自閉症の生徒は、コミュニケーションに困難を示すことがあるため、「国語」「外国語(英語)」学習において、生じたつまずきが学年の進行とともに、複雑かつ困難になり、心理的な不安定や不登校の原因等につながっているケースもある。

○また、発達障害のある生徒の中には、時と場に応じた言動、相手の心情や立場を踏まえた対応が難しかったり、日常生活を送る際のルールが守れなかったりすることがあるため、卒業後、円滑な職場生活や地域生活を送ることが難しくなっているケースもある。

○このため、本研究において、「国語」「外国語(英語)」「家庭」を中心に適切で効果的な指導方法等についての検討を行い、発達障害のある生徒の進路実現や卒業後の円滑な社会生活につながる支援の充実を図ることが重要である。

○また、現在、発達障害のある生徒への対応は、各学校において様々な工夫を行いながら指導・支援を進めているが、本研究で得た成果を山口県下全域の高等学校へ普及し、県全体の特別支援教育の質の向上を図る必要がある。

### 3. 目的・目標

特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、

- ① 学習上の困難やつまずき等の実態把握に基づく効果的な指導方法等について検討する。
- ② 人や社会との関わり、将来の生活に向けての学習を中心に、つまずきやすいポイントの体系化を図る。
- ③ 各教科等に共通して求められるユニバーサルデザインの視点に立った指導や支援の工夫を集積・整理することで、組織的に対応する体制を構築する。

### 4. 主な成果

- 発達障害の可能性のある生徒の障害の状態や、特性の把握方法を整理し、学習上どこに「つまずき感」をもっているのかなどを確認する方法について検討を行い、生徒理解につなげていくことができた。
- 「国語」「外国語（英語）」「家庭」の効果的な指導方法について検討が進んだ。
  - ・「国語」においては、文章の理解を深め的確に把握するために、図や絵を使ったり、漫画を活用したりすることが有効であることが確認できた。
  - ・「外国語（英語）」については、類似した文字の識別を助けるために、文字の大きさや文字・単語量の調節を行ったり、英語の音読を助けるために、音と文字を結び付けるパターン学習を行ったりすることが有効であることが確認できた。
  - ・「家庭」においては、実習や作業を行う際、活動の流れや全体像を示した後、簡潔な説明や指示を行ったり、具体物を掲示したりすることにより、スムーズに活動に取り組めることが確認できた。
- ユニバーサルデザインの視点に立った研究授業を実施し、定期考査やプリント作成上の工夫等の情報提供を行い、教職員全体への特別支援教育の意識向上に効果があった。
- スーパーバイザーや専門家の助言を得ることにより、実態把握の方法や指導方法等の妥当性の向上を図るとともに、取組の成果を教員間で共有することができつつある。

## 5. 取組内容

- ① 教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

<p><b>1 教科名</b> 高校「国語」</p> <p><b>2 対象とした学校、学年</b> 県立高等学校 2 学年</p> <p><b>3 対象とした児童生徒のつまずきの状況</b> ・年齢相応の漢字を覚えたり書いたりすることが苦手であり、文字の大きさや形状のバランスも悪い。作文も苦手と同じ言葉の繰り返しで内容が深まらない。言葉による説明は、意味解釈にズレが生じ、指示内容と行動が合わないことがある。</p> <p><b>4 教科における学習上のつまずきを把握するための方策</b> ① <b>実態把握の時期</b>：平成 29 年 4 月～平成 29 年 9 月 ② <b>実態把握の方法（実施者・方法）</b> ・授業担当者及び教科教育スーパーバイザーによる観察と分析、具体的な学習支援を実施</p> <p><b>5 実施した指導内容</b> ① <b>学習上においてつまずいている内容</b> ＜現代文 B＞ ・文学的文章を読む際に、登場人物の人物像をイメージすることが難しい。また、自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりする力に課題があり、場面設定や登場人物の相関関係が複雑になると、内容を読み取ることが難しい。 ・論理的な文章を読む際に、抽象的な言語表現が含まれる部分について考えることが難しい。 ・本人の身近な生活で使用する漢字は読み書きできるが、中学校卒業程度の漢字であっても、論理的な文章に用いられる抽象的な語彙等、本人にとって馴染みのないものについては記憶したり活用したりすることが難しく、努力しても定着が困難になりつつある。 ＜古典 B＞ ・古典（特に漢文）に用いられている基本的な語句の意味、用法を理解することはできるが、文章の展開に即して内容を捉える際に、具体的で単純な事項についても関連づけられず、混乱することがある。 ・授業において内容を把握したことであっても、考査等で問い方が変わると習得した知識を活用することが難しい。</p>
---

## ② つまづいている背景・原因

- ・言語理解力の弱さ
- ・空間認知の弱さ
- ・同時処理の苦手さ
- ・記憶容量の少なさ
- ・学習の苦手さから生じる学習に対する自信のなさ

## ③ ①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

### a 視覚的な支援

#### <現代文B>

- ・ワークシートを活用して、登場人物の説明・相関関係を図示し、指導の「見える化」を図ることで内容把握のための手がかりとする。（ワークシート）

#### <古典B>

- ・登場人物を視覚化する。  
（板書に登場人物の名前(ふりがな付き)をグループ別に色分けして提示）
- ・原文の情景を絵で提示する。

### b 抽象的表現に対する補足説明

#### <現代文B>

- ・抽象的な言語表現について、辞書で意味を確認させた上で、平易で分かりやすい表現で説明する。

### c 学習プリントの工夫

#### <古典B>

- ・生徒が書くべき事項を明確化・焦点化する。

### d 生徒自身による授業の振り返りの実施

#### <古典B>

- ・自己評価、理解できたこと・できなかったこと、授業や指導に対する要望等を記述させる。

### e 勉強の仕方を提示（授業外）

#### <現代文B>

- ・覚え方の原則・手順を提示する、漢字や語句を勉強する際に既存の知識と結びつけて覚えるなど、生徒に合った勉強方法を一緒に考える。

## ④ ③の結果（児童生徒の変容を含む）

### a 視覚的な支援

#### <現代文B>

- ・登場人物の説明・相関関係を図示（プリント）  
→ 登場人物の相関関係が明らかになったことで、内容の読み取りに集中できるようになったが、経験のない人間関係については、登場人物の心情を想像したり理解したりすることが難しかった。

<古典B>

- ・登場人物の視覚化（板書に登場人物の名前（ふりがな付き）をグループ別に色分けして提示）
  - 人名が読めなかったり、人名であることに気づけなかったりして内容の把握につまずいていたのが解消され、グループ別に色分けしたことで登場人物の相関関係もわかり、内容を理解しやすくなった。
- ・原文の情景を絵で提示
  - 情景をイメージすることができ、内容の理解につながった。

b 抽象的表現に対する補足説明

<現代文B>

- ・抽象的な言語表現について分かりやすく説明
    - 辞書で調べただけでは意味をつかめなかった言語表現の意味を把握することで、本文の内容について自分なりに理解したり考えたりすることが少しずつできるようになりつつある。
- c 学習プリントの工夫

<古典B>

- ・生徒が書くべき事項の明確化・焦点化
  - プリントの空欄に書き込む形式にしたことで、必要事項を全て書き取るようになった。また、漢文の書き下しについては、注意したい句法等が含まれた文に限定したことで、生徒自身が、書き下すときのポイントを意識して取り組むことができるようになった。
- ・書き下し文を用いた現代語訳
  - 書き下し文を用いることで、原文を現代語訳するよりもスムーズに作業を進められるようになった。また、部分的ではあるが、自分で現代語訳できたことが、自信につながった。

d 生徒自身による授業の振り返りの実施

<古典B>

- ・自己評価、理解できたこと・できなかったこと、授業や指導に対する要望等を記述
  - 理解できるようになったことを生徒自身が自覚し、自信につながった。

e 勉強の仕方を提示（授業外）

<現代文B>

- ・覚え方の原則・手順を提示、生徒に合った勉強方法を一緒に検討
  - 生徒自身が「内容を理解できた」という実感を得ることで、自信につながった。

⑤ 効果がある具体的な指導方法

- a 視覚的な支援
- b 抽象的表現に対する補足説明
- c 学習プリントの工夫
- d 生徒自身による授業の振り返りの実施
- e 勉強の仕方を提示

## 6 まとめ

### ① 教科における学習上のつまずくポイント

- ・文章を的確に理解するための前提となる登場人物や関係性の理解、抽象的な言語表現の意味把握につまずいていることがある。
- ・プリントを利用しても、授業の重要なポイントを把握できない。
- ・語彙力の低さとともに、既知の知識と関連づけて記憶することの難しさがある。

### ② つまずくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- ・文章を的確に理解するための前提となる事項を、図や絵を活用して視覚化し、生徒にとって分かりやすくする。漢文では、必要に応じて書き下し文を用いる。
- ・学習プリントの構成等を工夫することで、生徒が書くべき事項を明確にする。
- ・生徒に合った勉強方法を一緒に考え、実践させる。

### ③ 事前につまずかないようにするための指導の工夫・内容

- ・生徒の授業に対する意欲を高めるため、生徒の発言に対して肯定的な言葉で返すことを心がけたり、予習として、授業で扱う教材を原作とする漫画等やあらすじを活用したりする。

### ④ 通常の学級の授業における有用な指導方策

- ・文章を的確に理解するための前提となる事項を整理し、必要に応じて視覚的に提示する。
- ・生徒の実態に応じて学習プリントを工夫する。
- ・生徒の自己評価による振り返りにより、生徒自身に理解度の分析と到達度の確認をさせ、理解できるようになったことを自覚させることで自信をもたせる。

## 7 その他

### ① 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

- 平成 29 年 4 月：第 1 回実践研究校連絡協議会  
5 月：第 1 回教科指導法研究事業運営協議会  
7 月：第 2 回実践研究校連絡協議会兼研修会  
9 月：第 3 回実践研究校連絡協議会兼研修会  
10 月：第 1 回運営協議会  
12 月：第 4 回実践研究校連絡協議会兼研修会

### ② 本事業の月別の主な実施内容

- 平成 29 年 4 月：第 1 回実践研究校連絡協議会  
5 月：第 1 回教科指導法研究事業運営協議会  
6 月：教科指導法研究事業  
8 月：理解啓発研修会  
10 月：教科指導法研究事業  
11 月：教科指導法研究事業  
平成 30 年 1 月：理解啓発研修会  
2 月：教科指導法研究事業

## 1 教科名

高校「外国語（英語）」

## 2 対象とした学校、学年

県立高等学校 4 学年

## 3 対象とした児童生徒のつまずきの状況：

- ・英単語を発音することが困難で「読む」ことができない。
- ・アルファベットの文字に混同がみられる。
- ・英文を書くとき単語と単語の間をあけて書くことができない。
- ・聞いた単語を書き表すことが苦手であり、学習した単語・表現を使って「話す」など表出（アウトプット）に困難さがみられる。
- ・英語学習の4技能全般に困難さがあることから、意欲的に学習活動に向かうことができない。

## 4 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

① 実態把握の時期：平成 29 年 4 月～平成 29 年 9 月

② 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・授業担当者及び教科教育スーパーバイザーによる観察と分析、具体的な学習支援を実施
- ・コミュニケーション英語Ⅱのティームティーチングによる授業において、教科書にある課題や授業内での活動への取組への具体的な学習支援及び達成状況の観察により実態把握を行った。

### <学習活動の内容>

- a 英語による正誤問題：「TF Questions」  
読んだ内容を振り返る
- b 単語テスト  
語彙を定着させる
  - ・団体戦（3～4 人のグループで協力して取り組む）
  - ・個人戦（各自が取り組む）
- c 英文を聞き取って書く活動：ディクテーション
  - ・音声と文字を結び付ける
- d ワークシートの片面に書かれた英文を意味のまとまりごとに記憶し、ワークシートの裏面に、日本語訳を参考にしながら書き写す活動：「フリップ」
  - ・文字と意味を結び付ける
- e 音読テスト  
意味と音声を結び付ける
  - ・団体戦（3～4 人のグループで協力して取り組む）
  - ・個人戦（各自が取り組む）

## 5 実施した指導内容

### ① 学習上においてつまづいている内容

- ・似たような文字の識別が難しい。(b・d、p・q、n・u、g・yを混同する。)
- ・「まとまりのある内容」ごとに英文を区切ることが難しい。(文字単位で認識し、「単語」や「句」単位での認識ができない。)
- ・英語の文字と音声の関係が分からない。(音読のためにはカタカナが必要。)
- ・書き写すのに時間がかかる。
- ・単語間にスペースを空けずに書くため、自分の書いたものを用いて復習することが難しい。
- ・教科書にある課題(Q&Aや要約等)への取組方法が分からない。

### ② つまづいている背景・原因

- ・空間認知の弱さ
- ・全体を理解する力の弱さ
- ・記憶容量の少なさ
- ・文字と音声の関係に係る知識や経験の不足
- ・文字と音声の同時処理の苦手さ
- ・演繹的・帰納的に考える力の弱さ
- ・中学校での学習経験の不足
- ・学習の苦手さから生じる学習に対する自身のなさ

### ③ ①に対し実施した指導方法(工夫した点(授業中、授業外))

#### a 視覚的な支援

- ・授業の流れ(内容)や、主な学習課題・目標を板書で示す。
- ・板書の文字をなるべく丁寧な文字で大きく書く。
- ・活動毎に授業プリントを用意し、「学習したこと」が視覚的に手元に残るようにする。

#### b 音声に着目した英語のつづり方練習(「シンセティックフォニックス」の手法)

- ・音と文字を結び付けるパターン学習を行う。

#### c 授業のパターン化

- ・授業内容や活動の見通しをつけやすくする。

#### d 評価の工夫

- ・プリント学習の評価をすばやく行い、学習内容の理解度を生徒にその場で示すことで、できた生徒に自信をもたせるとともに、できなかった生徒にも再チャレンジの機会を与え、学習意欲を維持させる。

### ④ ③の結果(児童生徒の変容を含む)

- ・授業内容をパターン化することで、授業内で遅れたり分からなくても、再び活動に入りやすく、活動に取り組むことができるようになった。
- ・板書を写すスピードがはやくなった
- ・フォニックスの手法を用いた指導により、発音を学びなおすことで単語を読める実感をつかみ自信がついた。

- ・学習課題や活動の見通しがつきやすくなったことで、集中して授業に取り組めるようになった。

#### ⑤ 効果がある具体的な指導方法

- ・本時の目標、内容、流れなどのスケジュールを板書するなどして見通しを示す。
- ・課題ごとに黒板を区切るなどして板書を行う。
- ・活動に合わせたプリントを用意することで、行うべき課題が明確になるようにする。
- ・ティームティーチングによる授業を行い、T2による、授業の活動の補足の説明を個別に行う。
- ・例えば、「英単語の1語、2語」などの概念が分からない生徒には、具体的な例を示すことで理解を促す。

### 6 まとめ

#### ① 教科における学習上のつまずくポイント

- ・空間や形の捉えにくさなどから、アルファベットを書いたり覚えたりすることに困難さがあり、さらには、英単語を発音したり、読んだり、意味を覚えたりすること、アウトプットとして書いたり話したりすることも苦手である。

#### ② つまずくポイントにおける効果がある指導方法・内容

- ・プリントの文字を大きくしたり、文字量・単語量・文章量を減らすことで、一度に視覚的に捉える量を減らす。
- ・様々な活動を取り入れながら学習のスタイル（仕方）を身につけていくことに加え、授業の流れの中で活動内容をパターン化することで、先を見通し取り組みやすくする。
- ・次回の予告をしたり、特に新しい活動を行う時など、活動内容のポイントを板書したりする。
- ・一般的なつまずきと、特性要因の大きいつまずきの見とりを行い、ユニバーサルデザイン視点を取り入れた授業の具体的方法や内容を増やす。
- ・シンセティックフォニックスの手法を取り入れ、英語の発音のルールを再確認することで、英単語の発音のしにくさを解消し英語学習への心理的な拒否感を軽くする。

#### ③ 事前につまずかないようにするための指導の工夫・内容

- ・スモールステップのヒントを出す。
- ・授業の内容、流れなどを事前に視覚的に示し、混乱しないようにする。
- ・入学時のなるべく早い段階でのアセスメントを通じて、つまずきを予測する。

#### ④ 通常の学級の授業における有用な指導方策

- ・授業の内容、流れなどを事前に視覚的に示し、混乱しないようにする。
- ・プリントの文字を大きくしたり、1枚のプリントに表示する文字量・単語量・文章量を減らす。
- ・多様性のある学習課題をパターン化する。

## 7 その他

### ① 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等

- 平成 29 年 4 月：第 1 回実践研究校連絡協議会  
5 月：第 1 回教科指導法研究事業運営協議会  
7 月：第 2 回実践研究校連絡協議会兼研修会  
9 月：第 3 回実践研究校連絡協議会兼研修会  
10 月：第 1 回運営協議会  
12 月：第 4 回実践研究校連絡協議会兼研修会

### ② 本事業の月別の主な実施内容

- 平成 29 年 4 月：第 1 回実践研究校連絡協議会  
5 月：第 1 回教科指導法研究事業運営協議会  
6 月：教科指導法研究事業  
8 月：理解啓発研修会  
10 月：教科指導法研究事業  
英語学習に関する生徒への質問紙による調査実施  
フォニックスの視点を取り入れた、文字と音の法則の学習を  
基礎にした単語練習  
11 月：教科指導法研究事業  
学習の内容に関する生徒への質問紙による調査実施
- 平成 30 年 1 月：理解啓発研修会  
2 月：教科指導法研究事業

## 1 教科

高校「家庭」

## 2 対象とした学校、学年

県立高等学校 2 学年

## 3 対象とした生徒のつまずきの状況

- ・中学校での学習内容の定着が充分でない。
- ・一斉指導において、口頭による指示を理解することが難しい。
- ・見通しをもって行動することが難しい。
- ・指示書を見ながら自分の力で作業を進めることが難しい。
- ・落ち着きがなく、注意が散漫になってしまうことがある。
- ・手先の巧緻性に欠ける。
- ・コミュニケーションを図ることが難しい。

## 4 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

### ① 実態把握の時期

- ・1 学期中旬から随時

### ② 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・授業担当者及び教科教育スーパーバイザーによる行動観察
- ・授業参観及び行動観察、気づきメモ等による情報収集
- ・授業ごとの提出プリント
- ・定期考査
- ・授業評価・アンケート

## 5 実施した指導内容

### ① 学習上つまずいている内容

- ・事前連絡をしても忘れ物をしてしまい、実習に臨む態度としては評価が低い。
- ・一斉による指示の理解が難しい。
- ・手順・方法など見通しが立てられない。
- ・用語と操作を結び付けて理解し、実習を進めることが難しい。
- ・困っている時や何をしたらよいかわからない時、自分から質問することができない。
- ・落ち着きがなく、注意散漫になり、作業に集中できない。

### ② つまずいている背景・原因

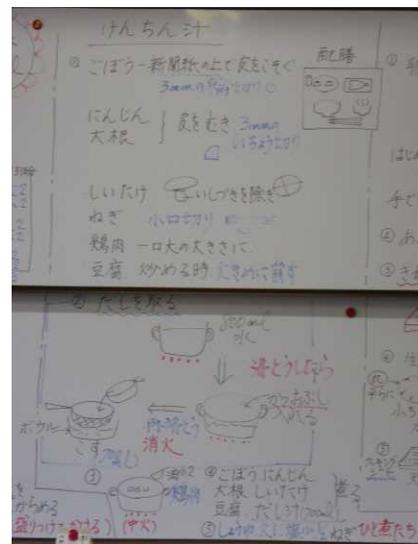
- ・視覚優位の生徒にとっては、一斉の指示を聞いただけでは理解が難しい。
- ・生活体験や対人関係の経験が乏しいため、自信がなく、不安感が大きい。
- ・作業の見通しがつかないため、落ちついて取り組むことが難しい。
- ・あいまいな語句で表現された場合、状態の加減が理解できない。
- ・他者への質問等コミュニケーションをとることが苦手である。

③ ①に対し実施した指導方法（工夫した点（授業中、授業外））

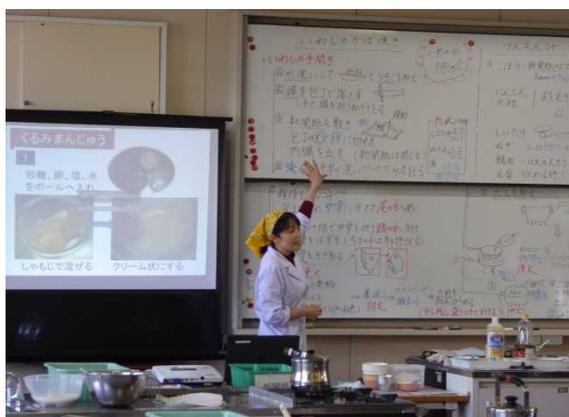
- ・忘れ物をすることを想定して貸出し用のエプロン等を準備しておく。
- ・授業開始前に服装など生徒の状態を確認する。（資料1）
- ・本時の目標、実習の流れ、手順を板書して、見通しをもたせる。
- ・時間の目安（出来上がり、試食開始、片付け終了）を提示して、目標をもって取り組ませる。
- ・説明の際、流れに沿って、ポイントを押えながら確認していく。（資料2）
- ・板書には、文字だけでなくイラストを用いる。（資料3）
- ・手順や状態がわかりにくいものについてはスライドを用い、視覚化する。また、示範を行う。（資料4,5）
- ・工程表をラミネートして各班に配付し、手元で各自確認しながら進めることができるようにする。また、材料をわかりやすく分配しておく。（資料6）
- ・机間指導を行い、個別に助言・支援を行う。（資料7）
- ・ほめたり励ましたりしながら、随時声かけをする。
- ・グループづくりへの配慮を行う。



（資料1）生徒の状態を確認



（資料3）イラストでの説明



（資料2）ポイントを押さえながら説明



(資料4) スライドでの視覚化



(資料5) 示範



(資料6) ラミネートした工程表・指示書の準備、  
材料を事前に分配



(資料7) 机間指導による個別支援

#### ④ ③の効果 (生徒の変容を含む)

- ・グループ内で与えられた自分の役割はきちんと果たし、班に大いに貢献することができていた。
- ・工程表を見ながらグループで確認し合い、自信をもって進めることができていた。(資料8)
- ・実習の途中で、以前は何度も質問してきていたが、躊躇することなく実習に取り組んでいた。
- ・食と直結する実習を含む題材であり、自分の食生活に対する意識を高めるきっかけとなった。
- ・グループで実習し、助け合い、完成させることで、調理に対する苦手意識を軽減することができた。
- ・授業後の振り返りアンケートから、示範による説明やスライドを用いた説明等は、大変有効であったと考えられる。(資料9)

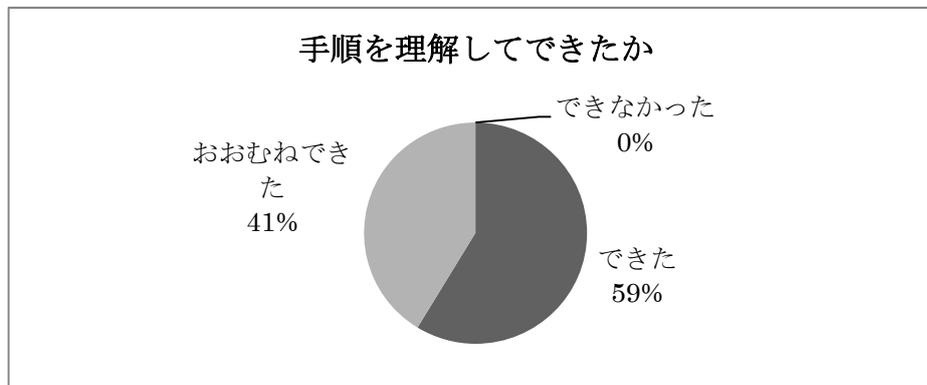
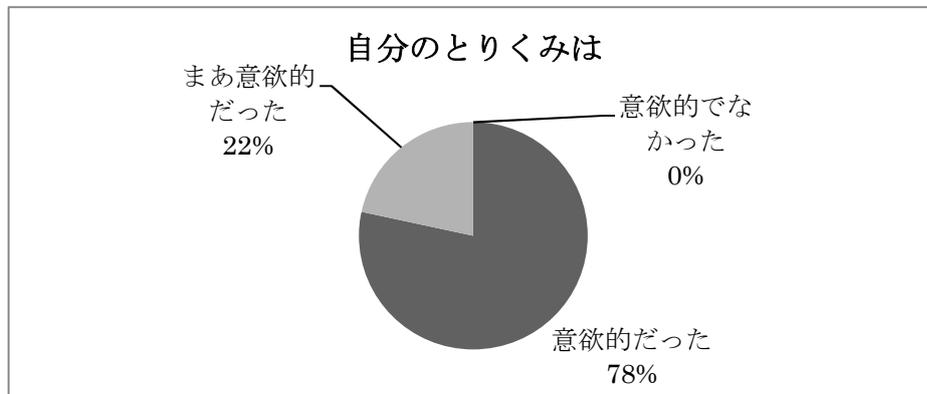
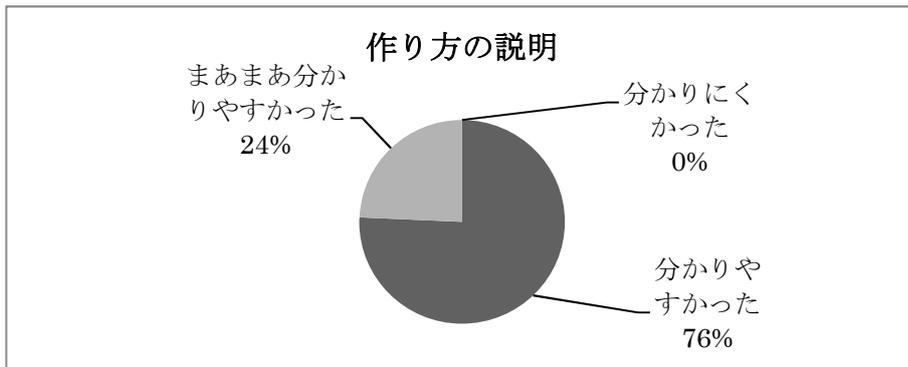


(資料8) 工程表を見ながら、グループでの確認作業

(資料9) 授業後のアンケート結果

授業の振り返り (該当する番号に○をつけてください)

作り方の説明は
1 分かりやすかった      2 まあまあ分かりやすかった      3 分かりにくかった
自分のとりくみは
1 意欲的だった      2 まあ意欲的だった      3 意欲的でなかった
手順を理解してできたか
1 できた      2 おおむねできた      3 できなかった
分かりやすかった所や分かりにくかった所を書いてください。



【分かりやすかった所や分かりにくかった所】

- ・魚のさばき方を実際に示してくれたのがわかりやすかった。
- ・いわしの説明がわかりやすかった。
- ・スライドを使ったところや前でやって見せてくれたところがよかった。
- ・魚を開くのは難しかったけど楽しかった。

⑤ 効果がある具体的な指導方法

- ・具体的な課題を設定して、生徒が主体的に取り組めるような授業内容としたことにより、積極的に授業へ取り組んだ。
- ・視覚教材や示範を用いて説明することで、集中力が増した。
- ・手順を黒板に示して常に全体の流れが把握できるようにしたことにより、見通しをもって作業に取り組むことができた。
- ・板書には、文字だけでなくイラストを用いたことにより、発達障害のある生徒だけでなく全ての生徒にとってわかりやすいものとなった。
- ・机間指導を行い個別にアドバイスをを行うことで、つまずきや不安を感じている生徒が安心して作業に取り組むことができた。
- ・グループ学習を進めていく中で、互いに声をかけ合い、協力しながら行うことにより、社会性や人間関係を育むことにつなげることができた。
- ・調理実習の際には実習助手に加わってもらうことにより、安全面への配慮や指導の充実を図ることが可能となった。

6 まとめ

① 教科における学習上のつまずくポイント

- ・集中力が散漫になり、落ち着いて作業に取り組むことができない。
- ・一斉での指示だけでは内容を理解することが難しく、自信をもって取り組むことができない。そのため、意欲が減退して、最後まで取り組めない。

② つまずくポイントにおける効果的な指導方法・内容

- ・新しいことへの興味・関心は高いが、集中力が低いので、作業前の説明は必要最小限とする。
- ・指示や説明はできる限り簡潔に、具体的に示す。
- ・実物や見本を提示したり、示範したりする。
- ・一斉に指示した後、個別に活動を確認し、適宜声かけを行う。
- ・できないときや困ったときは援助を求めるよう促す。
- ・手を取って補助をしながら体験させる。
- ・落ち着いて授業に臨めるよう、教室環境を整備する。
- ・器具等の置く場所や使用方法を指定し、ルール化を図る。

**③ 事前につまずかないようにするための指導の工夫・内容**

- ・作業全体の流れは、段階を追って短く端的に、ゆっくりと話す。
- ・グループ編成への配慮を行う。
- ・材料はわかりやすく分配しておき、スムーズに取り組めるようにする。
- ・家庭との連携を密にし、事前に家庭で練習してきてもらうなどして活動に自信をもたせる。

**④ 通常の学級の授業における有用な指導方策**

- ・指示は簡潔に行う。
- ・授業のめあてを明記する。
- ・学習過程（流れ）を視覚化し、常時提示しておく。
- ・ポイントとなる内容については、視覚的情報提示により、興味・関心を高める。
- ・器具の置く場所や使用方法等について、ルール化を図る。
- ・配慮を必要とする生徒だけがクローズアップされないような方法で支援を行う。
- ・生徒による授業評価を行い、授業改善につなげていく。

**7 その他**

**① 本事業のために教育委員会が実施した研修・指導主事の訪問等**

- 平成 29 年 4 月：第 1 回実践研究校連絡協議会  
5 月：第 1 回教科指導法研究事業運営協議会  
7 月：第 2 回実践研究校連絡協議会  
10 月：第 1 回運営協議会

**② 本事業の月別の主な実施内容**

- 平成 29 年 4 月：第 1 回実践研究校連絡協議会  
5 月：第 1 回教科指導法研究事業運営協議会  
6 月：教科指導法研究事業  
8 月：理解啓発研修会  
10 月：教科指導法研究事業  
11 月：教科指導法研究事業
- 平成 30 年 1 月：理解啓発研修会  
2 月：教科指導法研究事業

## 6. 今後の課題と対応

- 発達障害の可能性のある生徒の実態把握を行う際には、生徒が示す「つまずき感」への気づきが、教員一人ひとりで異なることがあるため、チェックリストの活用や複数で話し合う場を設定するなど、校内体制の整備を進めていく必要がある。
- 「国語」「外国語（英語）」における効果的な指導方法について検討を進めているが、それを日々の授業改善につなげたり、実習や作業におけるチーム・ティーチングの在り方の検討を行ったりするとともに、生徒の授業評価を取り入れながら研究の成果を検証していくことが必要である。
- 「国語」「外国語（英語）」「家庭」以外の教科・領域の指導においても効果的な指導・支援が行えるよう、障害特性に配慮した授業研究を行うとともに、全校体制でユニバーサルデザインの視点に立った授業研究を行う。
- 障害特性に特化した「つまずきやすいポイント」への効果的な指導・支援の工夫・改善の実践事例を収集するとともに、教科指導スーパーバイザーや専門家の参画による、指導者向けのガイドブック等を作成するなどして、県内高等学校へ広く周知する必要がある。

## 7. 指定校について

### 研究校（高等学校）

指定校名：山口県立徳山高等学校												
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		生徒数	学級数	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数			
全日制	普通科、理数科	308	8	301	8	321	9					
定時制	普通科	11	1	7	1	13	1	6	1			
徳山北分校	普通科	9	1	10	1	9	1					
鹿野分校	普通科	6	1	6	1	10	1					
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	5		91	4		20	16	1	1	4	143

指定校名：山口県立山口高等学校												
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		生徒数	学級数	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数			
全日制	普通科（本校）	320	8	320	8	319	8					
定時制	普通科	11	1	6	1	14	1	10	1			
通信制		1053										
徳佐分校		24	1	20	1	16	1					
	校長	副校長 ・教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	5	0	104	3	0	20	11	1	1	6	152

指定校名：山口県立宇部西高等学校												
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		生徒数	学級数	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数			
全日制	総合学科	156	4	151	4	143	4					
	校長	教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	0	41	1	0	0	4	1	1	32	82

### 研究協力校（高等学校）

指定校名：山口県立宇部高等学校												
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		生徒数	学級数	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数			
全日制	普通科・理数科・人文社会科学科・ 自然科学科	239	6	241	6	239	7					
	校長	教頭	主幹教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	2	0	56	1	0	9	6	0	1	4	80

## 8. 問い合わせ先

組織名：山口県教育庁特別支援教育推進室

- (1) 担当部署           山口県教育庁特別支援教育推進室
- (2) 所在地            山口県山口市滝町1-1
- (3) 電話番号          083-933-4615
- (4) FAX 番号          083-933-4619
- (5) メールアドレス   hattori.yoshinobu@pref.yamaguchi.lg.jp